有識者：リスクコミュニケーションの研究者

【説明の概要】

有識者から、これまでのリスクコミュニケーションに関する研究を踏まえ、以下の事項が説明された。

- 質問事項 1：プロトタイプワクチンの開発にあたって、リスクコミュニケーションの観点で事前に検討すべき事項について
  - 平時からメディアへの説明をはじめとしてリスクコミュニケーションを意識することが、有事の際の世論の形成に影響を与える。
  - リスクコミュニケーションは、広報だけでなく、広聴も含まれる。情報発信は、漠然と行うのではなく、ワクチンの性質や接種対象者等に合わせて情報提供の方法を工夫することが重要である。また、広聴においては、リスクに対する相手側の受け止め方をよく学び、理解したうえで次の情報発信に活かすことが重要である。
  - 例えば、感染症に関するヒトチャレンジ試験に取り組んだ国では、そのベネフィットやリスクが人々にどのように認知され懸念を持たれているのかを把握するための意識調査が行われた。本邦では、我々の調査研究以外には、そのような取組みがなされていない。
  - ある事象に対するリスクがどのように認知され懸念がもたれているのか、また、ベネフィットをどのように評価しているか、といった市民の声を定期的に確認するための社会調査から得られる知見は、臨床試験のインフォームドコンセント文書の作成の際にも役に立つ。特に、ワクチン開発に理解を示して臨床試験に積極的に参加している人々は、一般の患者・市民とは背景状況や考え方が異なることがあるため、それを意識したリスクコミュニケーションの方針を考える必要がある。

【意見交換の概要】

有識者の説明を踏まえ、研究班と以下の事項について意見交換が行われた。

- 新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経て、定期接種も含め、ワクチンの接種率が低下した原因について意見交換が行われた。有識者からは、副反応の評価で用いられる「有害事象」（注：ワクチンとの因果関係が有ることを必ずしも意味しない）等の専門用語がそのままメディアでも使用され、一般市民に悪い印象を与えたことが一因である可能性について言及された。その上で、専門用語は一般市民が理解できるような語句に変換するのは一案である。また、誤認識や偽情報の拡散が行われた際に、早期に検知して繰り返し訂正する仕組みをもつことも有用であり、誤情報や偽情報に批判的な立場のアカウントが拡散してくれたり、不安を感じたユーザーが安心感を得たりする。
- ワクチンの副反応における情報発信の在り方について意見交換が行われた。有識者からは、本邦では厚生労働省より副反応に関する会議体の資料は公開されているが、これらの情報を読み解くことは一般市民には難しいため、一般市民が理解しやすいような情報提供の工夫が行われるべきではないかとの見解が示された。その際、患者パネルのような仕組みを活用することも一案ではないかとの提案がなされた。

- 本研究が目指すプロトタイプワクチンのガイドライン改訂時の記載方針について意見交換が行われた。有識者からはプロトタイプワクチンのガイドライン自体は、ワクチン開発の専門家を対象としているため一般市民が理解しやすいような平易な言葉で記載する必要はないものの、一部の切り取りによる誤った解釈の情報拡散を防ぐための工夫は必要になる可能性があるとの意見が示された。
- ワクチン開発における製造販売業者と行政のリスクコミュニケーションの役割分担について意見交換が行われた。有識者からは、発信する情報の種類によって主体となるリスクコミュニケーションの担い手は変わるため、ガイドラインに記載する場合は分けて整理することが望ましいとの見解が示された。
- ヒトチャレンジ試験の調査研究の事例を踏まえ、ワクチン開発における一般市民とのリスクコミュニケーションについて意見交換が行われた。有識者からは、ワクチンの研究開発に関わる専門家と一般市民との認識の差を埋めるためにも、様々な手法による定期的な意識調査の実施は有用であるとの意見が示された。また、新たな取組みを行う際に人々の理解を得るためのプロセスについて、有識者からは、欧州におけるヒトチャレンジ試験を実施するための施設の開設に至るまでの事例が紹介され、一般市民とのコミュニケーションの重要性について見解が示された。
- ワクチンの臨床試験への参加経験をもつ人々の背景情報を踏まえて将来的な参加者のプールを作成することに関して意見交換が行われ、有識者からは、臨床試験参加者の募集・管理企業との連携により、許容される可能性がある旨の見解が示された。

以上

（参考資料）

厚生労働科学特別研究事業
「新型インフルエンザのプロトタイプワクチンの開発等に関するガイドライン策定に向けた調査研究」における有識者への事前質問事項
（リスクコミュニケーションの研究者）

＜質問事項＞

① 有識者の専門分野における最新の知見や新型コロナウイルス感染症での経験を踏まえ、プロトタイプワクチンを開発するにあたって、リスクコミュニケーションの観点で事前に検討すべき事項や、対応に留意すべき事項があればご教示ください。リスクコミュニケーションについては、実際にパンデミックが生じてプロトタイプワクチンをベースとしたワクチンを使用する段階においても当然に重要な課題であると認識しておりますが、その点も念頭に置きつつ、あらかじめプロトタイプワクチンの開発段階で留意しておくべきことについて特にご意見をお聞かせください。

以上